

平成22年3月2日開催
薬事・食品衛生審議会血液事業部会
運営委員会提出資料

日本赤十字社血液事業本部

献血後に新型インフルエンザ(A/H1N1)と診断(疑いを含む)された 献血者血液のウイルス検査の結果について

【対象】

平成21年6月3日～平成22年1月3日に新型インフルエンザに係る献血後情報が得られ製品等を確保又は回収した579名の献血者血液。(この中には、医療機関から回収された赤血球製剤59本、血小板製剤1本が含まれている。)

【方法】

- ・国立感染症研究所のマニュアルに従って、A型インフルエンザウイルスのM遺伝子(A-MP)及び豚インフルエンザウイルス由来H1HA遺伝子(swH1-HA)の検出を行った。
- ・下記の試薬を用いてウイルス核酸の抽出を行った。
血漿製剤：QIAamp Virus Biorobot MDx Kit(QIAGEN)
赤血球製剤：High Pure Viral Nucleic Acid Large Volume Kit(Roche)
- ・ABI PRISM7900(Applied Biosystems)を用いたreal-time RT-PCR(TaqMan Probe法)により新型インフルエンザウイルスの検出を行った。
- ・陽性コントロールとして、国立感染症研究所から分与された2009(H1N1)不活化ウイルスを用いた。

【結果】

579名の献血者の血漿製剤565検体及び赤血球製剤413検体すべて陰性であり、ウイルス遺伝子は検出されなかった。

献血後に新型インフルエンザ(A/H1N1)と診断された献血者背景

